

2015 年 4 月 5 日 「肉身をもった期間の重要性」 石川祐司教会長

以下に訓読のみ言を掲載いたします。

<訓読のみ言>

『天聖經』

第七篇 地上生活と霊界 第三章 永生のための地上生活

第二節 霊界に行くための準備期間

肉身をもった地上生活の重要性

2 皆さんはいつ、神様のみ前に行くようになるのでしょうか。父のみ前に至るまでの道は、一人で行くべき最後の運命の道です。そのような道を行ったとしても、もし神様が歓迎してくれなかったらどうしようかと考えてみたことがありますか。世の中に生まれる時、寂しい一人息子や、何もない人の息子、娘、そのような哀れな境遇の息子、娘として生まれたいですか。そのようなことは嫌でしょう。誰もが裕福な環境、すなわち裕福な家庭、裕福な国に生まれることを願うでしょう。自分が生まれる時から、その国が自分を歓迎して迎えてくれる、裕福な環境で生まれることを願うのです。

このようなことを考えてみると、私たちはどのような姿で、どのような国に生まれるのか、裕福な環境をもった姿で生まれるのか、あるいは天国と地上天国が歓迎できる姿で生まれるのか、この運命を決定するのがこの短い生涯路程なのです。

4 地上の生活と永生の生活は、別々ではありません。地上の生活も重要であり、永生の生活も重要です。永遠の生活は、地上生活からつながっているという意味です。二つとも重要ですが、今日この地に生きる人たちは、永生の概念を知りません。この地の生活が重要だと思っています。

問題は、統一教会員も、現在の生活が永生を保障する基盤づくりとなっていることを知らないことです。ですから、「永生は今からだ」という天国観をもって天国基盤を設定した上で、永遠の生命のために自分が生きていることの重要性をいつでも感じなさいというのです。これを知らなければ、他のことをしてしまいます。今自分がするすべてのことが、永生世界の価値決定を左右しているというのです。

それは、互いに向き合って動きます。地上世界が上がれば永生世界（霊界）も上がり、地上世界が下がれば永生世界も下がります。一方が回れば、他方も同様に回ります。それで、現世においてそれを実感して、永生にプラスさせる生活をしなければなりません。永生と現世は分れません。天国と地獄を明らかにしなければ、それが分かりません。したがって、永生と地上生活の重要性を感じながら働きなさいというのです。

5 皆さんは、肉身をもったこの期間がどれほど貴いかを知らなければなりません。宇宙も復活させることができ、すべての天下を統一させることができるのは、肉身をもっているこの期間しかありません。神様と万物を合わせても、この肉身世界と取り替えることができませ

ん。神様とこの宇宙を合わせても、肉身をもった人間がいなければ完成されないので、肉身は宇宙と取り替えることができません。